



磐城新報

發行日 五月十五日 廿五日
編輯部 磐城新報社
印刷部 磐城新報社
廣告部 磐城新報社
電話 磐城新報社
新開定額 一月 二圓 三月 五圓 半年 九圓 一年 一六圓

産業合理化は

常各礦山にドンナ

反映を齎らしたか

一九二二年(大正十一年)から一九二七年(大正十六年)の間、歐洲を中心とした帝國主義戦争は、日本資本主義を飛躍的スピードで發展させた。

一トは戰地に肉弾とされ全反對に佛壇に位牌の數を多くする以上の何物でもなかつた。

却説、五千億(日本全土の時價で十一ヶ國賣渡したのの値段だ)の富を煙たし、二、三千億數十萬人の精魂を奪つた世界帝國主義戦争は、一九二七年遂にその急進を告げた。

交戦國は蜘蛛の巣を被つて一獲千金の機會を五十鈴川上社の御授けとして狂喜し、事業の無制限な擴張、後先見すの増資をやつた。製絲、船舶、鐵道、金屬、化學、等之等諸工業の基礎は實に燃料だ。

手銭奴たる事を自ら禮讃して、毫も恥ぢとせぬ磐城の淺野翁を初め、常磐を貫く各大小炭坑主の群は、競つて經營規模を徹底的に擴大し、龍大な増資をなすことに客でなかつた。

成程、炭坑主は凄じい所謂戦争資金となり新田町の紅裙を前にして紙幣で鼻をかんだ話すらある。

だが、斯んな戦争が長續きされることは吾々にどうして決して幸福なものではない。

戦争を當て込んでいた、儲けようとするブルジョア階級の生活水準は急激な低減を以て人心を収めんとする。他方ブルジョア主義の産業合理化は實に

人物商店紹介

〔二〕

遠藤只之助氏

篤望家の
同氏は豊間村屋旅館の主人にして郷地豊間の勝地を遠く東京方面に紹介し逐年避暑客を多からしめたる愛郷の人にしてその功績や實に大である。

健康温篤の氏は豊間信用組合の會計を務め、徒らに政争に走る事なくして郷村の信望を一身に聚めてゐる。將來に期待をかけてゐる。

高倉精一氏

仁俠の士
高倉精一氏は平町「高倉天」の主人にしてレコード板萬年筆等の販賣に於て斷然他店を擡き石城地方に於て此種の業界を壟斷してゐる。商勢である、同氏又稀に見る仁俠の人として揚名あり幾多隠れたる奉仕慈善の逸話がある。背景に平町有ける私は前述のそれは全に主客顛倒せる羞ぢらじり得ない。

山野邊東次郎氏

奇人の藥劑師
山野邊藥局の存在は餘りに見ると驚かされる。氏力のある政治家を持ち斯業の汎く主客顛倒せる羞ぢらじり得ない。

大平藥店

健康な
店主國部安氏は當町小野屋藥舖に長らくの精勤を勵み皆て模範店員として大いに賞せられたる人にして今日の一丁目に於て藥店を泰山の安きに置き商名風に揚が一般需要者よりの信頼が

清野キヨ子女史

全國の産婆協會に出席
榮ある本縣の代表

イワキサロン

洋風満溢の
サロン！サロンに一杯の紅茶を啜せざる人も、サロンの博名を知らぬものはない。平町に十幾つのカフェーありと雖も「イワキ」の店名に於て既に斷然勝ちを制し、料理の鮮やかなる手際と接客法の立派なる点は同業者と雖も賞揚の辭を惜まない。

三井服店の隆昌

名實共に
磐城第一を誇る

獄窓の便り

鈴木昌雄

大和田印刷所

印刷物
せられ度く殊に唯一郎に就いてよろしく頼入り候。最後に健康と幸福とを祈り上げ候大井川君によりしく御傳へ下され度候。

初めて泡沫新聞の記者となりて

大井川生

私は或事情の許に初めて小今も向これを餘儀なくされ新聞の記者となつた。

少年時代私が考案してゐた記者として「記者」といふものは自在私の経験は浅いが、在平の筆刀を携けて汎ゆる事態、旬新聞の記者諸彦は次を庖俎し、そのよく大衆に掲の如き苦難を等しく嘗め得る如き幻想に囚はれた。ンテリグメントは斯業に志すもの漸く増加せしめて居るが、その愛嬌や商人を擡ん既に平町を中心として二十数種の新聞が刊行されてゐる。

廣告料の減額乃至契約の解除と斯る新聞數の増大の對照に於て之を見る時、誰しも「記者」のいみじき生活哀願とを以て終るのである。

(次號へ續く)

